

提出いただいたご意見等と村の考え方

小笠原村障害福祉計画【第7期】・障害児福祉計画【第3期】

番号	ご意見の内容	意見に対する考え方
1	<p>障がい者手帳を持つまでもなく、それでいて健常者として過ごし、しかし日常生活においてやや過ごしにくいと感じる者がいるのだと考えている。言い方は大変失礼であるが予備軍的(適当な語句が見当たらなかったの)でこのような表現となってしまう)な人たちもいるわけで、そうした人たちへの支援であるとか村としての支援策や配慮などが求められているのではないのか。</p> <p>最近、村行政広報誌のフォントがUDフォントになったが、これもそうした一環で在ろうと捉えているので、そうした人たちにも何らかの手当てが必要だと考える。</p>	<p>村におきましても、社会福祉全体の向上は必要であると認識しております。いただいたご意見は、今後、事業展開を行っていくうえで参考とさせていただきます。</p>
2	<p>内地では生活困窮者に対して「子ども食堂」、高齢者や障害者に給食センターが設営されて、生活支援の輪が広がっている。東京都は小中学校の給食費無償化が進められ、島しょ部でも新島、小笠原以外は実施か検討中となっている。当村は週に1便の内地からの食料品がライフラインであり、必然的に高価である、買い物に行けない人にとって食の問題は大きい。手軽に食べられる超加工食品(レトルト、スナック菓子、水煮惣菜の素)などには体に必須のミネラルやビタミンタンパク質が不足していて、鬱などの精神障害が発生しやすいとの報告も出ている。できれば島内にだれでも利用できるフードバンクの設置が望まれる。</p>	<p>村におきましても、食や栄養に関する施策は重要であると認識しております。いただいたご意見は、児童福祉・高齢者福祉・障害者福祉の事業展開を行っていくうえで、参考とさせていただきます。</p>
3	<p>生活困窮者、年金生活者にとって(高齢者、障害者をふくむ)住宅家賃も大問題である。内地では住宅政策は高齢者に非常に冷たく、高齢者というだけで空き家があってもほぼ断られる。現在の高齢化社会で我々のほとんどはおそらく80歳以上の年齢まで生存することになる。健康でぽっくり死なない限り、最後は介護を受ける障害者となる可能性が高い。当村ではバリアフリーの障害者住宅はほとんどなく、在宅介護の困難さが心配される。</p>	<p>いただいたご意見は本計画で取り組む内容の範囲外ですが、住宅施策については、今後必要に応じて、各関係機関と協議してまいります。</p>
4	<p>村民の精神的、肉体的健康を保つことが将来の障害の進行を遅らせ、自殺予防の一助になるはずである。気軽に参加できるサークル活動、ボランティア活動、趣味の集まり、さらに問題の当事者同士で悩みを話し支え合う活動「ピアサポート」。そのためにぜひ、低額有料で借りられる会場が欲しい。今のシステムは、グループや団体の構成員から会費や実費をとって、コンサートや講演会、演芸会を開けない。内地の公民館では毎日いろんな講座が開催されていて、住民が手芸や、音楽、工芸、スポーツに気軽に参加していた。孤独を感じていながら、人との交流を望んでいる人にいつでも行けるいつものとは違う人に会って、いつものとは違う環境に触れられる場所。心を縛り付けて苦しみを与える問題から一時的にでも離れられる時間、場所。他人とのコミュニケーションに困難を抱えている人が一人でも何かに没頭出来る場所。検討よろしく。</p>	<p>村におきましても、こころの健康と身体の健康は、重要であると認識しております。いただいたご意見は、本計画で取り組む範囲外ではありますが、今後必要に応じて、各関係機関と協議してまいります。</p>

提出いただいたご意見等と村の考え方

小笠原村障害福祉計画【第7期】・障害児福祉計画【第3期】

番号	ご意見の内容	意見に対する考え方
5	<p>人は何のために働くのか？もちろん、生活の為というものもあるが、社会参加により誰かのためになっているという満足感も重要である。幸福感を得られる働き方、働く場所の選択が大切である。エッセンシャルワーカーが働き続ける理由の一つは仕事への誇りもあるはずである。全国重度障害者雇用事業所協会初代会長は、「人は仕事をすることで、ほめられ、人の役に立ち、必要とされるからこそ、生きてる喜びを感じることができる。」と述べている。何らかの理由で、長時間デスクワークを続けられないとか、肉体労働ができないとかの高齢者や障害者は、社会コミュニケーションの参加を阻害されていると感じている人もいるはずである。当村には、そういった人たちが労働できる作業所、シルバー人材センターが存在しない。現在の世界には実に多様な働き方がある。内地のアプリには単位が1時間以内の労働を募集しているものもある。小笠原は今、労働力不足に困っている事業所がたくさんある。ごく狭いニーズに対し、ごく狭い作業をするワーカーをマッチングすることは可能ではないか？</p>	<p>本村には、授産事業等を行っている福祉事業所はありませんが、小笠原村社会福祉協議会が、自立支援事業として障害者の就労を支援しています。今後の事業展開を検討していく中で、貴重なご意見として参考にさせていただきます。</p>
6	<p>1970年代、イタリアから始まったソーシャルファーム (Social Firm) が注目されている。私は農業者として、ソーシャルファームの一形態として農福一体の実践を提案したい。農業は様々な作業が連続して連綿と続いていく作業であり、個性に応じて担当を割り振れる作業がたくさんある。体力が必要な作業ばかりでなく、毎日単調な繰り返しの作業、座ってできる作業、ぶらぶら観察だけをする作業、家畜の世話、グループ作業、一人でやる作業。残念ながら就労継続支援事業所は法人でないといけないので個人事業所は開設できない。何ができるかのアドバイスはできるので相談に乗ることはできる。今計画中の水耕栽培は農福連携事業に向いていると思う。</p>	<p>障害者の就労について、いただいた具体的な提案も参考にしながら、今後も必要に応じ、各関係機関と連携しながら、事業展開の参考とさせていただきます。</p>